

学位論文審査の結果の要旨

氏名	MD. ABDUL MALEK HAWLADER
審査委員	<p>主査 谷口 憲治 (印)</p> <p>副査 伊藤 康宏 (印)</p> <p>副査 糸原 義人 (印)</p> <p>副査 古塚 秀夫 (印)</p> <p>副査 宇佐見晃一 (印)</p>
題目	Microcredit Activities of Microfinance NGOs (MF-NGOs) and Poverty Problems :Perspective from Bangladesh
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>この研究は、非政府組織マイクロファイナンス (MF-NGOs) の小信用機能を考察したものである。貧困の緩和は、どの社会でも小信用機能の共通した最優先の課題であり、そこにおける小信用貸しは、貧困な借り手のための事業が計画されている。バングラデシュは、マイクロファイナンス (小金融) にとって安息地であり、世界の貧困削減にむけた開発手法のモデル国とされている。1970年以前、農村における貧しい人々は、大変高い金利で非公式貸付人からお金を借りていた。これら非公式貸付人であるモハジャン (mohajan) は、たとえモハジャン (mohajan) と借り手との間でなされる全ての契約が、農村内部の力関係で強制されたとしても政府は規制することが不可能であった。1976年以降、グラミンバンクモデルに従って、小信用行動はバングラデシュにおけるそれを必要とする人々から貧困を解消し続けている。現在、バングラデシュの経済開発のいろいろな分野で1200のNGOが機能しているが、それらの中で721のNGOが、貧困の緩和を目指して全国で1662万人に及ぶ農村における貧困な借り手に多様な小信用を提供している。これまでにバングラデシュ全国のMF-NGOsについて述べた多くの論文がある。本研究は、MF-NGOsが農村の借り手に当初の約束以上の追加的費用を加えた高金利ないし手数料を徴収していることを明らかにした。他に、MF-NGOsが、この国の機能している商業銀行組織の便益から閉め出されている極度に貧困な女性の社会経済的状態を改善しようとする多くの注目する計画を実行していることを述べた。しかし、多くの研究は、10年間に、MF-NGOsの借り手会員が困難を免れたものは誰もなかったと結論づけているが、本研究は、貸付金が認められたいろんな目的のために使われていることを明らかにした。さらに、小さいMF-NGOsは、大きなMF-NGOsよりも好ましい成果をあげている。それゆえ、MF-NGOsの小信用計画および払い戻しの機能に関して多くの論争がある。このように、本研究は、対象とする特に最貧困の女性、彼女らの所得獲得行動の参加、貸付金の使用、MF-NGOsの実際の手数料、彼女らの事業を遂行するためにMF-NGOsのほとんど確実な手数料は何かということに正確を明らかにしようとした。</p> <p>本研究のために、バングラデシュのタンガイル地区サダル・タナの地域で無作為に情報を収集した。本研究地域で数年間、小信用機能を行っているいくつかの大きなMF-NGOsといくつかの小さいMF-NGOsがあることがわかった。研究目的のためにBRAC (バングラデシュ農村前貸委員会) のような大きなNGOとPKSF (村仕事支援基金) の組織の中から四つの小さなNGOを無作為に選別した。求められた資料は、BRACから15、小さなMF-NGOs</p>	

から 35 の 50 項目の予め設定された質問により収集された。さらに、小さい NGOs は、手数料（利率）を基に二つに分けた。

この考察により明らかになったことは、小信用計画の出資金に対する回収比率が 99% であることから、MF-NGOs の貸し付けには危険性はなく、そのためにある程度の手数料を減らすことが出来ることを指摘したことである。つまり、大きな MF-NGOs は、その手数料を軽減すべきであり、この研究では、MF-NGOs は、9-12%以内の利率または手数料で事業展開が出来、農村の貧しい借り手から 8 万円以上の追加的費用を必要としなかった。他に、公式的には、すべての借り手は、女性であったが、それらの 32%だけが実際に手にし、残りの部分は男性親族が使用したことを示した。土地所有状況によると回答者の 66% が、貸し付け対象者群に属していた。残りの 34%の借り手は、非貸し付け対象者群に属しており、その平均貸し付け規模は、多くなっていて、MF-NGOs は個人的には非対象群に、非対象利率で貸付金を提供しているといえる。また、その貸付金の大きな部分、38%は、非生産的目的に使われていた。つまり、残りの 62%は、他の生産的目的に使用されたが、その回収は、金の返済には不十分であった。これらの全ての限界性にもかかわらず、ジニ係数分析は、小信用は社会における所得不均衡緩和、貧困の軽減に、ある程度まで重要な役割を果たしていることを示している。最後に、小さな農村にある MF-NGOs の成果は、考察対象地域において大きいものより良好であることが明らかになった。

それゆえに、たとえ多くの欠点や非難が何人かの学者や研究者によって示されたとしても MF-NGOs 小信用計画は、バングラデシュの所得不均衡を軽減の打開に成功を収めている。小信用は、バングラデシュのような発展途上国における貧困緩和と農村改善のための万能薬ではないことは良く知られている。MF-NGOs 組織は、貸出金だけが貧困の危険から抜け出すために農村貧困層を支援することができないといえよう。貸付金が借り手に使用されるということを適切な訓練と厳しく点検される適切な体制の中で、お金は流通されなければならない。その他の点では、貸付けは、正に借金の危険な周期の中に農村の貧困層を繋留するであろう。それゆえに、小信用機能の神聖さを考えると、MF-NGOs は、利益生産事業としてそれを行うべきでないと強調したい。

以上のように、本論文は、バングラデシュにおける肥料市場改革による影響をこれまで総肥料量の変化としか見ていなかったものを主とする 3 つの肥料使用についてみることにより国民経済、農家経済に生じている問題点を明らかにするとともに経済対策について分析したもので、大変高く評価でき、学位論文として十分価値があるものと判断した。

以上のように、本論文は、バングラデシュにおける農村経済発展による貧困緩和を目指す農村小金融（マイクロファイナンス）の役割について述べたものであるが、その貧困緩和機能は働いているものの、実証分析を通じて規定の金利以上に追加手数料を取っていること、高い回収率から大規模マイクロファイナンスほど手数料軽減の可能性があること、借り手が女性であることは知られているが、その多くは男性親族といった非貸付対象群によって使用されているといった先行研究では明らかにされていない実態を明らかにしたもので、大変高く評価でき、学位論文として十分価値があるものと判断した。